

三沢市地域公共交通会議 会議録

会議名称	平成29年度 第2回会議					
開催日時	平成29年9月21日(木) 13時30分～15時00分					
場 所	三沢市役所本庁4階 大会議室					
出席者	会 長	小渡 章好	副会長	宮古 直志	監 事	立崎 裕輔
	監 事	坂本 幸子	委 員	沼田 巖	委 員	種市 博幸
	委 員	木村 高広	委 員	鈴木 繁寿(代理)	委 員	赤石 佳昭
	委 員	佐藤 美仁	委 員	山村 雅文	委 員	向中野 貢
	委 員	山本 剛志	委 員	山本 優	委 員	高橋 常幸
	アドバイザー	吉田 樹	アドバイザー	白戸 一正		
	事務局	三沢市：村井参事兼課長、根岸課長補佐、中村主事 株式会社ケー・シー・エス：佐藤、清川				
会議次第	1 開 会 2 会 長 挨拶 3 議 事 (報告事項) (1) 運賃体系の再構築について (2) その他 4 閉 会					
会議の経過及び審議結果(概要)						
1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (報告事項) (1) 運賃体系の再構築について 事務局から資料：報告事項1を説明 <主な意見> (小渡会長) ・クロスセクターベネフィットの考え方は重要。具体的な例を挙げると、八戸市内では朝8時に必ずバスに乗る方が多い。高齢者は高齢者バス特別乗車証でバス移動ができるため、元気なお年寄りが多い。この方たちがバスに乗らずに家にいると、人間関係も疎遠になり、結果として福祉医療の負担も増える。バス移動で外的刺激を受けることにより予防効果が出ている。公共交通部門で費用負担があっても、別の部門で相殺でき、市民の総負担は減るのではないかと。 (坂本委員)						

- ・バス運賃は安いにこしたことはない。免許返納した後の移動は不安を覚える。現状 100 円で乗車できるのが今後の見直しにより料金が高くなることは事前に皆様にお伝えできるとよい。方針が見えてくるといいのではないか。

(小渡会長)

- ・距離×単価は政策ではない。収入が増えて生活が向上していた時代では耐えられた。現代では違った議論をしていく必要が有る。

(坂本委員)

- ・塩釜から三沢市内に来る際の運賃は高い。料金見直しをして、安くなると利用者が増える見通しがあるのか。

(事務局)

- ・塩釜地域は人口自体そのものが少ないため、現状維持の利用者を見越して検討を進めていく。

(立崎委員)

- ・料金形態を 50 円刻みにした場合の煩雑さが気になる。1 コインで乗っていたのであれば、200 円を入れて 50 円のお釣りで手間なのではないか。100 円+100 円の 200 円であれば支払いがしやすい。100 円刻みとすることでそれぞれの区域を広くするようなことも考えてはどうか。八戸市の利用者でお釣りが面倒といった意見はないのか。

(吉田アドバイザー)

- ・お釣りが面倒といった意見はほぼない。八戸市内は従来は対キロ区間制料金であったため、初乗り運賃が 130 円で、その後は 140 円、160 円、180 円と 10~20 円刻みの運賃となっていた。料金改定後は初乗り運賃を 150 円として、その後 200 円、250 円となっており、初乗り運賃は値上げとなっているほか、区間によってはこれまでは 10、20 円しかあがらなかったのが一気に 50 円上がるようになったケースもあるため、運賃が一つ上がる手前で降車する方が多く、乗降客が 3 倍に増えている停留所もある。

- ・今日、三沢駅から「みーばす」に乗ってきた。「みーばす」の 5 分前に十和田観光電鉄のバスが来たが対キロ区間料金制で 160 円となるため、待っていた人は誰も乗車せずに 5 分待つて 100 円の「みーばす」に乗車していた。60 円差でも関心が高いため、分かりやすさで 100 円 200 円とした場合、隣のバス停と運賃が 100 円違うことに対する抵抗感の方が大きいのでは。

(小渡会長)

- ・私自身、現在の新しい運賃体系が変わってから、八戸駅からバスを利用するようになったが、やはり料金が倍となると抵抗があるかもしれない。

(佐藤委員)

- ・料金体系の案は検討すればいくらでもつくりことができるが、これまでもやはり収支という部分も考えて運賃設定をしており、仮に市内全域 100 円といった思い切った案を考える場合でも、これから先も継続的に維持していけるかといった点も考慮していただいたほうが良い。

(木村委員)

- ・100 円均一区間の設定はさておき、区域内だけ、区域外から区域内へ、区域内から区域外への利用者の変化なども予測しているのか。シミュレーションしてみると財政負担は和らぐのか。

(事務局)

- ・現時点ではまだ具体的なシミュレーションまでは実施していない。タクシーや十和田観光電鉄

の既存路線バスにも影響が生じると考えられることから、クロスセクターベネフィットの視点も踏まえながら対比し、数字も出しながら検討していきたい。

(小渡会長)

- ・外出促進の効果など、クロスセクターベネフィットに関する研究は進んでいるのか。

(吉田アドバイザー)

- ・国交省でクロスセクターベネフィットの手引きは出しているが、変化がわかるまでには時間がかかる。教育部分では、例えばスクールバスの経費の抑制などにつながればメリット・デメリットは数字として出しやすいためわかりやすい。医療については公共交通の利便性が高まると高齢者が外出しやすくなり病院にかかりやすくなるため、短期的には医療費が増大してマイナスの効果が発現する可能性がある。長期的に見れば、病院にかかりやすくなったことが病気の早期発見につながり、結果的に医療費の削減が図られることが期待されるものの、実際の効果発現までには10~20年程度かかるため、日本では今のところ具体的な効果として把握でいていない例はない。
- ・地方部は公的負担のバランスをどのようにかんがえるのか、といったことも重要になる。八戸では50円刻みの運賃設定とする一方で、高齢者に対しては高齢者乗車証で外出支援を行っている。みーばすは全体で見れば乗客1人を運ぶのに336円を行政が負担していることになるが、金額的には大きな問題はないのではないかと思う。個人負担と行政コストのバランスを考えることが必要である。
- ・運賃の設定については、色々なやり方があるが、長野県の自治体では、朝昼晩で運賃を変えて運行している。高齢者や免許を返納した方の外出支援として昼は非常に安価な運賃でバスを運行している。誰のために、何を目的として運賃体系を再構築するか、といった部分を掘り下げて考えることが重要である。
- ・運賃を下げたら利用者は増えるか、との質問があったが、八戸市の例では1時間に1本以上ある便では利用者は増えているが、1日に数本しかない路線に変化はない。
- ・ちなみに八戸圏域の上限運賃を500円としたのは、マイカー保有のコストが概算で1日900円程度となっていることから、往復の運賃がほぼこれに相当する金額になるようするためである。従来の運賃体系での利用者の平均支払額が300円程度であったため、そのあたりのバランスも考慮した。利用しやすい良い路線・ダイヤを検討し、それを利用してもらうために運賃体系で背中を押す、といった認識が必要である。

(2) その他

(向中野委員)

- ・資料1、十和田観光電鉄バスの運行経費に対して、行政負担をしている割合が現状運賃の3~4倍にならないと難しいのでは。
- ・北浜方向からは4~5千円タクシー代がかかる。市民病院は予約や課によって曜日も決まっております、利用者は少ない。

(小渡会長)

- ・公共交通でのタクシーの役割も考えていく必要がある。

(向中野委員)

- ・他地域では免許返納者へタクシー券 1 万円を交付しているような例も見られるが、三沢市でも一時的なものをやりましようとの声も出ている。

(小渡会長)

- ・地域のタクシー事業者からの提案も上がると良い。

(吉田アドバイザー)

- ・バス運賃の見直しは何を目的に行うか。免許返納なのか、あるいは利用者全般を対象にした利用促進のためなのかによっても戦略が変わるため整理が必要である。
- ・三沢駅の駅前広場整備について、駅前に整備する複合施設の直近にタクシー・一般乗用車の乗車場を配置しているようだが、一般利用者の車両がここに集中してしまう懸念がある。ユニバーサルデザインの観点から車いすユーザーなどに対する配慮は必要だが、近いところからタクシー・バス・一般乗用車乗り場とするのが一般的である。
- ・資料 1、「みーばす」のコストが乗客一人当たり 336 円で収入が一人 100 円、トータル 436 円コストに対して運賃収入が 100 円、336 円が補助金となっている。タクシーの初乗り運賃よりは安いので、タクシーに置き換えることは難しい。ただしこれは「みーばす」全体としての数字であるため、路線ごとに因数分解して分析することが必要である。
- ・免許返納に対しては、1 年のみで支援を行うケースも見られるが、その後も移動は必要であるため、一時的な対応はあまり望ましくない。タクシーについて、特定の年齢層を対象に定額で利用ができるようにし、定額運賃とメーター運賃の差額を行政が支援するような仕組みができれば、より多くの人にとって使い勝手が良いものになるのではないかと。
- ・「みーばす」のみでは必要な市民に移動支援が届かない可能性があるため、タクシーの利活用も含めてどのようにどこまでフォローしていくのか、会議の場で議論していくことも必要となってくる。
 - ・11 月 17 日（金）に北上市で「お出かけ交通博」が開催される。東北 6 県の公共交通の最前線が分かるため参考にしてみてはどうか。

4 閉会